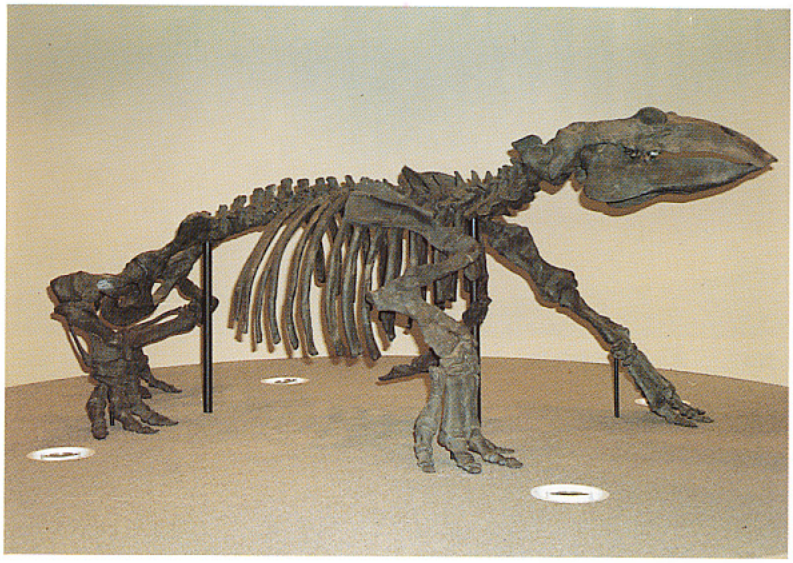
デスモスチルスの復元 その後

犬塚　則久（東京大学）
Norihisa　INUZUKA

デスモスチルスの側方型の骨格復元は　1980年に地質標本館がオープンした時にはじめて公表された．これは幼獣であるが　その後1984年夏には　北見市の北網圏北見文化センターに成獣の気屯標本が組立てられ　さらに　1988年春には津山市の津山郷土博物館に地元からでたパレオパラドキシアの側方型復元が完成した．

これらの新しい考えに基づく体型や　そのほかの最新のデータに考察を加えることにより　デスモスチルスやパレオパラドキシアの生態がかなり明らかになってきた．　すなわち　体格・生体・ロコモーション・摂食機構・生息地・食性・生活史である．



←口絵1
成獣のデスモスチルスの復元骨格（気屯標本）．北網圏北見文化センター蔵．

口絵2→
幼獣のデスモスチルスの復元骨格（歌登標本）．地質調査所地質標本館蔵．

↑口絵3　老獣のパレオパラドキシアの復元骨格（津山標本）．　津山郷土博物館蔵．

↑口絵4　デスモスチルスの実物大生体復元像．　富山市科学文化センター蔵．

↑**口絵5**　デスモスチルスの頭蓋（歌登標本）．　スケールは10cm．

↑**口絵6**　パレオパラドキシアの頭蓋（泉標本）．　右側面．

↑口絵7　デスモスチルスの右上顎第2大臼歯（気屯標本）．　スケールの目盛は1㎝．

↑口絵8　パレオパラドキシアの右下顎第2，第3大臼歯（泉標本）．